

平成 19 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

1. 窒素酸化物及び粒子状物質に係る排出ガス診断装置の実用性に関する調査

調査研究代表者氏名：株式会社 堀場製作所

- ・ 3 年間にわたる成果としては、評価できる。走行状態の把握によって、局地汚染対策がさらに進展し、環境改善に貢献できるように、今後さらに機器の軽量化や精度の向上に努力してもらいたい。
- ・ 簡便な計測法の開発ということで一定の成果をあげていると考えます。実用化に向けて、さらなる開発を期待したい。
- ・ 成果はあがっていると思うが、開発目標に対しての達成度の表示が不明瞭であること、課題に対しての対応策が示されていない点に不満が残る。
- ・ 着実に改善が進められているが、まだ実用化に当たってさらに改良すべき点も残されている。すなわち、NO と NO₂ の同時定量計測、応答性の向上が課題である。
- ・ NO₂ も測定出来るシステムの構築が必要である。

2. 局地汚染地域における窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の複合的削減のための対策技術に関する調査

調査研究代表者氏名：松下エコシステムズ 株式会社

- ・ 実用評価テストにおいて、SPM に対して一定の成果が得られたことは評価できる。
- ・ ACF を用いた NO_x の除去効果については、更に除去率の向上について、福岡県との共同研究の成果に期待したい。
- ・ 局地汚染対策技術として、SPM、NO_x の削減技術の更なる進展を望む。
- ・ システムとして全体構成がややバラバラとなってしまったが、一定の技術的成果は上っているように思う。実用化を意識した研究開発だが、局地汚染対策としての総合的費用対効果についての検討が必要である。
- ・ 最終年度の研究成果については疑問がありますが、全体としては研究成果は評価できると考えます。
- ・ 3 年間の努力は十分に評価するが、2 つの研究の組み合わせには少々不十分な点も残っている。実用化に向けた取り組みを具体的に示す必要があり、各種の試みに手を出しすぎることは問題がある。
- ・ もうひと工夫すれば NO、NO₂ と浮遊粒子を効率良く浄化するシステムが出来るのではないだろうか？

3. 高活性炭素繊維を活用した浄化システムの汎用性及び実用性に関する調査

調査研究代表者：福岡県

- ・ ACF による浄化能力については、既に確認されているが、固定式浄化装置、あるいは走行時におけるバンパー部に設置する浄化装置など、沿道汚染浄化対策としての成果は期待できるが、さらに一酸化窒素（NO）に対する浄化効率の更なる向上を図ることが課題であろう。
- ・ 車内における汚染対策も課題であるが、本題の研究テーマは沿道排出ガスの浄化が主題であることに留意すること。
- ・ 車内空気の汚染問題の指摘は興味深い。いろんなアイディアがあり発展の可能性も期待できるが、局地汚染対策における実用性という観点からは費用対効果についての検討が必要。
- ・ 研究目標を明確に定めることが必要と考えます。また研究成果を適切に整理しておくことも必要と考えます。
- ・ 長年にわたる取組みでシステムの改善を進めていることは評価に値するが、定量的な浄化効果を把握した上で周辺で排出される NO_x に対してどれだけの低減効果があるかを明示する必要がある。
- ・ これ迄に得られた基礎データは貴重である。応用研究としてどこにフォーカスするのか、検討、評価すべきと思います。